

2010年

9月

8月

日	月	火	水	木	金						
				1	2	3					
4	5	6	7	8	9	10					
11	12	13	14	15	16	17					
18	19	20	21	22	23	24					
25	26	27	28	29	30						

教室のある日



ありの読書会……………10:00～12:30 参加費：300円

「どの子もよく生きようとしている」という人間観で教育から見直しています。

縁側の日……………10:30～12:00 参加費：300円

毎月第一木曜日にしています。認知症に関心のある方、どなたでもどうぞ！

★8月16日～19日は夏休みです。

★8月の縁側の日は、お休みです。

★8月のありの読書会は、お食事会です。

★ 教室のFAXの番号が変わりました。(電話番号はそのままです)

222-9077 ⇒ 226-3303

〒514-0821 三重県津市垂水 1200-7

☆豊吉晴子★S.L.S.すぎな☆

Tel : 059-222-9077

Fax : 059-226-3303

E-mail : haru_sugina1044@wave.plala.or.jp

Blog : http://blog.goo.ne.jp/s_l_s_sugina/



「49歳・アイルランド冒険記」

お陰さまでアイルランドでは、楽しく充実した日を過ごさせていただきました。思い切って行って、本当によかったです。ありがとうございました。皆さんへのお土産にと、まずはアルバムを整理しました。まだの方は、ぜひ見に来てくださいませ。

すぎな通信 84号は、アイルランドの報告をさせていただきます。

●なぜ、アイルランドに？

英語圏で、日本人が少ない魅力的な国は…？そこで思い出したのが、2枚のCD。アイルランドの心がこもる曲で、この15年私をずっと癒し続けてくれました。調べてみると、アイルランドは私にピッタリの国に思えたのです。

●リスニング力は、この年からつくのか？

ホームステイ&語学留学を決めてからは、本気で英語を勉強するようになり、英検も受けました。自分の耳の悪さを自覚して行ったので、聞きとれないというショックはありません。ただ、もっと聴けるようになりたい！と強く思うようになりました。でも、この年からでは、もう遅いのでしょうか？

●I'll follow you!

ホスト宅に着いたのが夜中の12時過ぎ。その翌朝には、古代遺跡を巡る英語のバスツアーに参加しました。案内をしてくれる運転手は、たぶん優秀なガイドマンなのだとも思います。流暢にしゃべるはしゃべる！しかも、その早いこと早いこと！途中バスの乗り換えや昼食、チケット受け渡しなどの時間や場所を説明されても…私はあきらめモードに…そして、私は隣席のノルウェー人に宣言していました。

“ I'll follow you! (私、あなたについていきます!) ”

まさか、こんな大事な言葉を異国の地で、しかも初対面の男性に言うなんて…必死になれば、何でもやるもんです！ またこの人が親切で、本当に助かりました。

●「とりあえず、英語を口にしてみる」

いよいよ、授業。クラスメイトは、スペイン、ドイツ、イタリア、スイス、イタリアそして日本から。全員が質問します。「えー！英語で英語の文法について質問するのー！？」しかも身振り手ぶりでペラペラと話すので私は圧倒されてしまいました。だんだんわかってきたのですが、あまり文法を気にせず思いついたことをどンドン口にしているようです。先生がそれをよく聞いて答えるのです。そういうことか！と彼らは納得していきます。辞書はひきません。この学び方は、目からうろこでした。

私は日本でも、頭で英文を考えてから口に出そうとするばかりに、しゃべるタイミングを逃すことがよくありました。少しでも英語慣れしている日本人がいようものなら、シュンとしてしまう…。でも、向こうでは英語を使わないわけにはいきませんから、「とりあえず、英語を口に出す」ことになります。これは、壁を破るカギのように思いました。一方、「文法は、大事！」ということも痛感しました。

●「わかったふりをしない」

行き飛行機で隣席の海外経験豊富な方が私に下さったアドバイスは…「わかったふりをしないこと」。日頃私も大事に思っていることでしたが、会話の途中で質問するタイミングもなく、ついついわかったふりをしていました。すると、クラスメイトの1人が（スペイン女性・21歳大学生）が私に真剣な目で言ってくれたのです。「わかった？本当に？私も最初来たとき、わからなかった。あなたの立場に共感できる。私は何度でも言うよ。だから、ちゃんと聞いて。でない英語の力がつかないよ」。

ハッとしました。それから私はもっと真剣に聞くようになりました。そして、わからないときには、「もう一度言って」と言うように努めました。

「相手を理解しよう」「学ぼう」。

まずはこの姿勢が、言葉を超えて伝わるようです。

●働きながらのホームステイ

「午前中は英語の勉強、午後はクラスメイトと観光を」と私は勝手に考えていました。ところが、ほとんどの子がランチもせずさっさと帰ってしまうのです。彼女たちは、「ホームステイ先のお手伝いを条件にホームステイ代が無料になる」という制度を使っていたのです。「夕べは、私の赤ちゃんが泣き止まなかったから、眠ってないの…」と真っ赤な目をしている子もいました。

そういう事実にも感嘆。私は一人ダブリンへ観光に出て行くことにしたのです。

●公用語・英語の気楽さ

ダブリンでも空港でも、ふと声をかけてもらえることができました。

“Hi! Where are you from? (ハーイ！どこから来たの?)”

若い人・年をとった人に関係なく全く同じセリフ。日本語のように「言葉使い」を気にしないでいいのです。英語の気軽さが、触れ合うチャンスを作ってくれました。

●おおっ、聞き取れる！？

帰国してすぐ私の車で鳴り出したのは、いつも聞いていた英語のCD。あれ…？聞き取れなかったのが聞き取れる！が、それもつかの間…すぐ元に戻りました。でも、「真剣にたくさん聞けば、聞き取れる！」とわかったのです。あきらめず続けます。

●「自分は困っている。手伝ってもらえますか？」と“OK!”

「飛行機が1時間遅れる！迎えの人に連絡しなきゃ。でも、携帯が通じない！」「教えてもらったバスの停留所にいるのに、全然バスが来ない！」どうしよう～～！なんてことが何度かありました。でも、基本的には日本にいる時と同じでした。

「自分は～したい。でも…ができなくて困っている。手伝ってもらえますか？」

そう聞けば、皆さん、自分ができることを考えて、まず言ってくれるのです。

“OK!”と。そして、道を教えてくれたり、一緒に行ってくれたりするのです。

“OK!”には、「わかった。いい方法がある。任せて！」そんなニュアンスがあるようでした。この“OK!”に何度ほっとさせてもらったことでしょう。

●「行った者だけの宝物」

「袖触れ合うも多少の縁」と言いますが、小さな出会いもたくさんありました。その方々の笑顔こそ、写真に一番収めなかったもの。でも、残念ながら、そういうショットってなかなか撮れません。こればかりは、行った者だけがもらえる心温まる宝物。そして、こう思います。私も温かく異国の人に接する日本人になりたい、と。

●自分の後ろには、「日本」がある。

アイルランドって親切な国。でも、そんな面だけではありません。私と同じ学校に9ヶ月間勉強する予定の日本人がいましたが、彼女は当初、「日本人だ！」と石を投げられたそうです。よほど日本人にひどい目に合わされた経験でもあるのでしょうか。自分の後ろには、「日本人」がいる。そういう自覚がいたと思いました。

見栄も外聞も捨て、年齢も超えて学ばせてもらえるって、ほんとに楽しいです。また、日本でないから見えてくる自分にも驚きます。どうも味を占めてしまったようです。